

教科名	音楽科	校種	高等学校
-----	-----	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	音楽Ⅰ	必	1	
2年	音楽Ⅰ	必	1	
3年	音楽Ⅲ	選	2	

科目名 (教科名)	音楽 I (音楽科)				
担当教員	金 智熙				
学年	1	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。
2. 創感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
3. 日本の伝統文化について歴史的・文化的な理解を深め、国際交流に生かせる力を育む。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	○表現・歌唱 ○鑑賞	・腹式呼吸の確立と視唱力の向上 ・声域の拡張と、曲種に応じた発声工夫 ・楽曲の歴史的背景とともに行う代表的作曲家の作品鑑賞 ・郷土の伝統音楽と、諸外国の音楽の役割
2 学期	○表現・創作 (ミュージカル) ○表現・器楽 (弦楽器) ○宗教音楽 (聖歌)	・様々な表現形態による歌唱の特徴を活かした表現の工夫 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫 ・基本的奏法の習得 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上 ・聖歌や宗教音楽を通じて祈りの心を育む
3 学期	○表現・歌唱 (日本・外国の歌) ○アンサンブル (ボディ・パーカッション)	・原語の理解と、外国語科との連携による的確な発音の修得 ・リズムの特徴を活かした表現の工夫とアンサンブル
評価の 観点	関心・意欲・態度	音楽的な見方、考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする
	表現の創意工夫	音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈し、生活や社会における音楽の価値を考えながら音楽表現を工夫し、創造活動を行う
	表現の技能	音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、自分の表現意図を豊かに表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造活動を行う
	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験 (実技試験) と平常点 (提出物等) により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30%	
教科書・副教材等	●教科書： 「新高校生の音楽1」 音楽之友社 ●副教材： 「聖歌集」	

科目名 (教科名)	音楽 I (音楽科)				
担当教員	金 智熙				
学年	2	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 主体的な鑑賞能力を伸ばし、個性を生かした創造的な活動で、音楽の表現力を一層高める。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	○表現・歌唱 ○器楽 (弦楽器)	・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の修得と応用 ・声域の拡張・曲種に応じた発声の修得 ・基本奏法の習得 ・声部の役割を感じ取りながらのアンサンブルと表現力の向上
2 学期	○表現・歌唱 (伊語・独語・英語) ○器楽 (邦楽) ○宗教音楽 (聖歌)	・原語の理解と個性豊かな自己表現の追求 ・旋律・ハーモニーを知覚し、伴奏楽器の役割を感じとり、協力し合いながらのアンサンブル ・邦楽の旋律・様々な演奏法や音色を学習する ・我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、国際社会に生きる自覚の育成 ・聖歌・宗教音楽を通じ祈りの心を養う
3 学期	○表現・創作・劇音楽 ○鑑賞	・総合芸術であるオペラ・ミュージカルより音楽と他の芸術との関わりを理解する ・歴史的背景とともに、代表的作曲家の作品鑑賞
評価の 観点	関心・意欲・態度	音楽的な見方、考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする
	表現の創意工夫	音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈し、生活や社会における音楽の価値を考えながら音楽表現を工夫し、創造活動を行う
	表現の技能	音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、自分の表現意図を豊かに表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造活動を行う
	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈をしたり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験 (実技試験) と平常点 (提出物等) により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30%	
教科書・副教材等	●教科書： 「新高校生の音楽1」 音楽之友社 ●副教材： 「聖歌集」	

科目名 (教科名)	音楽Ⅲ (芸術科)				
担当教員	金 智熙				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 音楽の諸活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
2. 個性豊かな表現能力と、高い表現技術を身につけ、主体的な鑑賞能力を伸ばす。
3. 日本の伝統文化を継承し、創造していく心を養い、国際交流に生かせる力を育てる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	○表現・歌唱	・発声のメカニズムを学び、腹式呼吸の確立と応用 ・声域の拡張・曲種に応じた発声の体感 ・歌詞の内容や曲想を理解した豊かな表現の工夫
	○器楽 (打楽器・弦楽器)	・器楽の奏法と、編曲などによる創造的な演奏技術の修得
2 学期	○表現・独唱重唱等のアンサンブル (イタリア語・ドイツ語・英語)	・様々な表現形態による特徴を理解し表現上の効果を生かした歌唱 ・曲の構成及び曲想の把握と個性豊かな表現の工夫
	○表現・ (合唱 他)	・表現内容を総合的に理解し、表現意図をもった創造的な歌唱 ・自主的な練習・発表による積極的な音楽表現の修得
	○鑑賞	・音楽と舞踏・演劇・美術など他の芸術や文化とのかかわりを理解する
3 学期	○宗教音楽 (聖歌)	・聖歌・宗教音楽を通じて祈りの心を育て、社会における音楽 (宗教音楽) の役割を考える
評価の 観点	関心・意欲・態度	音楽的な見方、考え方を働かせて、音楽活動の喜びを味わい、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする
	表現の創意工夫	音楽的な見方・考え方を働かせて、楽曲や演奏を解釈し、生活や社会における音楽の価値を考えながら音楽表現を工夫し、創造活動を行う
	表現の技能	音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽表現を創意工夫し、自分の表現意図を豊かに表現するために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけ、創造活動を行う
	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり価値を考え、美しさを味わって鑑賞する
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験 (実技試験) と平常点 (提出物等) により各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験：70% 平常点：30%	
教科書・ 副教材等	●教科書： 「新高校生の音楽3」 音楽之友社 ●副教材： 「聖歌集」	

教科名	書道科	校種	高等学校
-----	-----	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年				
2年	書道Ⅰ	選	2	
3年	書道Ⅲ	選	2	

科目名 (教科名)	書道 I (書道)				
担当教員	大林 千鶴				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心を育て、感性を豊かにする。
2. 書の能力を高め、表現と鑑賞の基本的な能力を伸ばす。
3. 個性を伸ばし、世界に向けたしなやかな美の心を育てる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	○はじめに ○漢字の書に親しもう ○篆刻 ○硬筆	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道へ ・姿勢・執筆法 ・用具・用材 (文房四宝) ・書体の移り変わり ・楷書の古典 【初唐の三大家】 【日本の楷書】 ・名前の印を彫る。青田石 ・ペン習字 ・全国硬筆作品展覧会出品
2学期	○漢字の書に親しもう ○書き初め	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の古典 【蘭亭序】 【日本の行書】 ・篆書の古典 ・隸書の古典 ・草書の古典 ・漢字の書の鑑賞 学院祭書道展 外部書道展への出品と鑑賞 ・全国書きぞめ作品展覧会出品
3学期	○仮名の書に親しもう ○生活の中の書	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立 ・仮名の基本線 ・平仮名…いろは歌 ・変体仮名 ・連綿 ・年賀状・挨拶文などの書き方・マナー
評価の観点	【関心・意欲・態度】	書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしているか。学習活動への参加状況や態度。学習プリントの内容。硬筆練習帳の内容。
	【思考・判断・表現】	書の美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しているか。
	【技能】	書の基礎的な能力を生かし、効果的な表現技術を身につけているか。
	【知識・理解】	日常生活の書の効用、文字及び書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっているか。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 作品制作点と平常点 (硬筆帳・展覧会レポート等) により、各学期の成績を算出する。 ● 割合 : 作品制作点 70%・平常点 30% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 書 I (光村図書) ● 副教材 : ペン字のこころ 1 (日本書写教育研究会) 	

科目名 (教科名)	書道Ⅲ (書道)				
担当教員	大林 千鶴				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の文化や伝統を尊重する態度を育てる。
2. 実用書の技術とマナーを身につける。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	○多様な書之美 ○漢字書之美の多様性 ○硬筆	・書道Ⅱから書道Ⅲへ ・多様な書の表現と鑑賞 ・篆書での創作 ・隸書での創作 ・草書での創作 ・行書での創作 ・楷書での創作 条幅【半切】作品の制作 ・全国硬筆作品展覧会出品
2 学期	○仮名書之美の多様性 ○絵巻物創作 ○賞状揮毫	・仮名の発生から完成へ ・臨書から創作へ ・仮名の書の鑑賞 学院祭書道展・外部書道展出品と鑑賞 ・伝えたいことを工夫して残す ・賞状の書式と文字
3 学期	○生活の中の書	・実用書 (硬筆・筆ペン)

評価の 観点	【関心・意欲・態度】	生涯にわたり書を愛好する心情や、書の伝統と文化を尊重する態度を身につけているか。学習活動への参加状況や態度。学習プリントの内容。筆ペン練習帳の内容。
	【思考・判断・表現】	確かな書の表現技法を習得し、それを生かしてより自由で個性的な書の表現を工夫しているか。
	【技能】	自己の感興や意図を実現するため構想を具現化し、主体的に個性的・創造的な表現ができているか。
	【知識・理解】	鑑賞や書論の講読などの活動を通して、書の伝統と文化について理解しているか。書と生活や諸文化との関わりについて理解しているか。

評価の 方法と 割合	●評価方法：作品制作点と平常点（硬筆帳・展覧会レポート等）により、各学期の成績を算出する。 ●割合：作品制作点70%・平常点30%
------------------	----------------------------------------------------------------------

教科書・ 副教材等	●教科書： 書Ⅲ (光村図書) ●副教材： 洗心 一贈り物の表書き練習帳一 (日本書写教育研究会) ペン字のころころ2 (日本書写教育研究会)
--------------	-------------------------------------------------------------------------------

教科名	美術	校種	高等学校
-----	----	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年				
2年	美術Ⅰ	選	2	
3年	美術Ⅲ	選	2	

科目名(教科名)	美術 I (美術科)				
担当教員	香月 敦				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 油絵の技法や道具・材料について知る。また西洋絵画の基本的なものの見方について学ぶ。
2. 縄文土器から縄文人の美意識を理解し、その精神を反映させた土器制作に挑む。
3. 長い時間をかけて1つの作品に取り組むことで、見通しや準備といった計画力・調整力を養えるようにする。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	描画材と表現 <鑑賞>	<ul style="list-style-type: none"> ・近・中・遠景を意識した絵画を油絵で制作する。 ヴァールール、パースペクティブといった西洋絵画の基礎的な考え方に基づき、空間感・奥行き感のある平面作品を目指す。最終的には、空間内に存在するモチーフを描き分けることで、その場に存在する「空気」を描くことを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
2学期	彫刻の技法 <鑑賞>	<ul style="list-style-type: none"> ・陶土塑像による土器を制作する。 縄文土器の表現的特徴やその精神性を知り、自らの作品でそれらを具現化する。単に工芸として土器を作るということではなく、「縄文の精神」そのものを彫塑することを目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
3学期	観察と表現 <鑑賞>	<ul style="list-style-type: none"> ・油絵で人物の胸像を描く。 油絵の下塗りや質感を生かした描写を目指す。モデルの表面的な似顔絵に終始するのではなく、色彩でモデルを造形する意識を持って制作にあたる。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
評価の観点	【美術への関心・意欲・態度】	美術的な創造活動の喜びを味わうとともに、主体性をもって美術的表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
	【発想や構想の能力】	感性や創造力を働かせて様々に発想を巡らし、美術的な美しさとは何かを常に念頭に置き、創造的な表現の構想を練っている。
	【創造的な技能】	自らの発想を実現させるため、その意図に応じた表現方法を工夫し、創造的に表している。
	【鑑賞の能力】	感性や想像力を働かせて、美術作品などから美術的な美しさを感じ取ったり、味わったり、美術文化を理解したりしている。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法： 作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合： 作品点40%、制作点30%、平常点30% ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 高校美術Ⅱ（日本文教出版） ●副教材： 	

科目名(教科名)	美術Ⅲ (美術科)				
担当教員	香月 敦				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 多様な要素を組み合わせた作品制作を行い、造形力を高める。
2. 日本伝統の工芸作品に興味と関心を持ち、その心を知る。
3. これまでに培った美術的感性・技術を自覚的に自分のものとするを目指す。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	版画家 山本容子 <鑑賞>	<ul style="list-style-type: none"> ・「孔版画」を制作する。 孔版画による、画筆描写では表現できない画面を意識する。 孔版画特有のマチエール等を意識的に用いることによって、変化に富んだ作品を目指す。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
2学期	染色家 吉岡幸雄 美術科 奈良美智 <鑑賞>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統技法や美意識によって生まれた、工芸の美を味わう。 陶土による「抹茶碗」を手びねりで制作する。成形後、乾燥を経て、素焼き、施釉、本焼きする。 ・自画像を制作する。 高校3年間で培った美術的感性・技術を総動員し、「現在の自分」を象徴的に表現する。 ・年間を通して、美術展等を訪問し、レポートする。
3学期	美術にかかわるといふこと	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に制作した抹茶椀で、茶会をし、1年を締めくくる。
評価の観点	【美術への関心・意欲・態度】	美術的な創造活動の喜びを味わうとともに、主体性をもって美術的表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
	【発想や構想の能力】	感性や創造力を働かせて様々に発想を巡らし、美術的な美しさとは何かを常に念頭に置き、創造的な表現の構想を練っている。
	【創造的な技能】	自らの発想を実現させるため、その意図に応じた表現方法を工夫し、創造的に表している。
	【鑑賞の能力】	感性や想像力を働かせて、美術作品などから美術的な美しさを感じ取ったり、味わったり、美術文化を理解したりしている。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：作品点、制作点、平常点を総合して成績を算出する。 ●割合：作品点40%、制作点30%、平常点30% ただし、作品提出がない場合は作品点、制作点を0点とする。 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 高校美術Ⅲ (日本文教出版) ●副教材： 	